

文・こやま峰子
絵・小泉るみ子

ツルのとこぶ大地で




ツルのとぶ大地で



文・こやま峰子 絵・小泉るみ子

女子パウロ会



北海道の秋空に、白い雲が うかんでいます。
ちおりちゃんは四歳になりましたが、新しい
ことが、なかなか おぼえられません。
おかあさんは、そのうち きつと、みんなと
同じように、話せるにちがいない、と信じてい
ます。けれど、公園で同じ年ごろの子どもたち
に会っても、もじもじするばかり。だまって友
だちの顔を、見つめているだけです。
おかあさんは、ちおりちゃんが、お友だちと
楽しく、あそべる日がくるのを願っています。

黄金色の木の葉が ちりはじめたころ、お
かあさんは、ちおりちゃんを釧路のびょうい
んに つれていきました。

長い間 待たされましたが、やっと看護師
さんに よばれました。お医者さんが 検査
結果のファイルを見ながら、おかあさんに告
げました。

「自閉症という障害です」と。

診察室をでてきた おかあさんは、予想し
ていたものの ショックで、ろうかのいすに
すわりこんでしまいました。

ちおりちゃんが、そっと おかあさんによ
りそいました。

おかあさんは、いろいろなびょうきの本を
読んでいたので 不安はありませんでしたが、お医
者さんに はっきり言われて 泣きたいよう
な気持ちです。



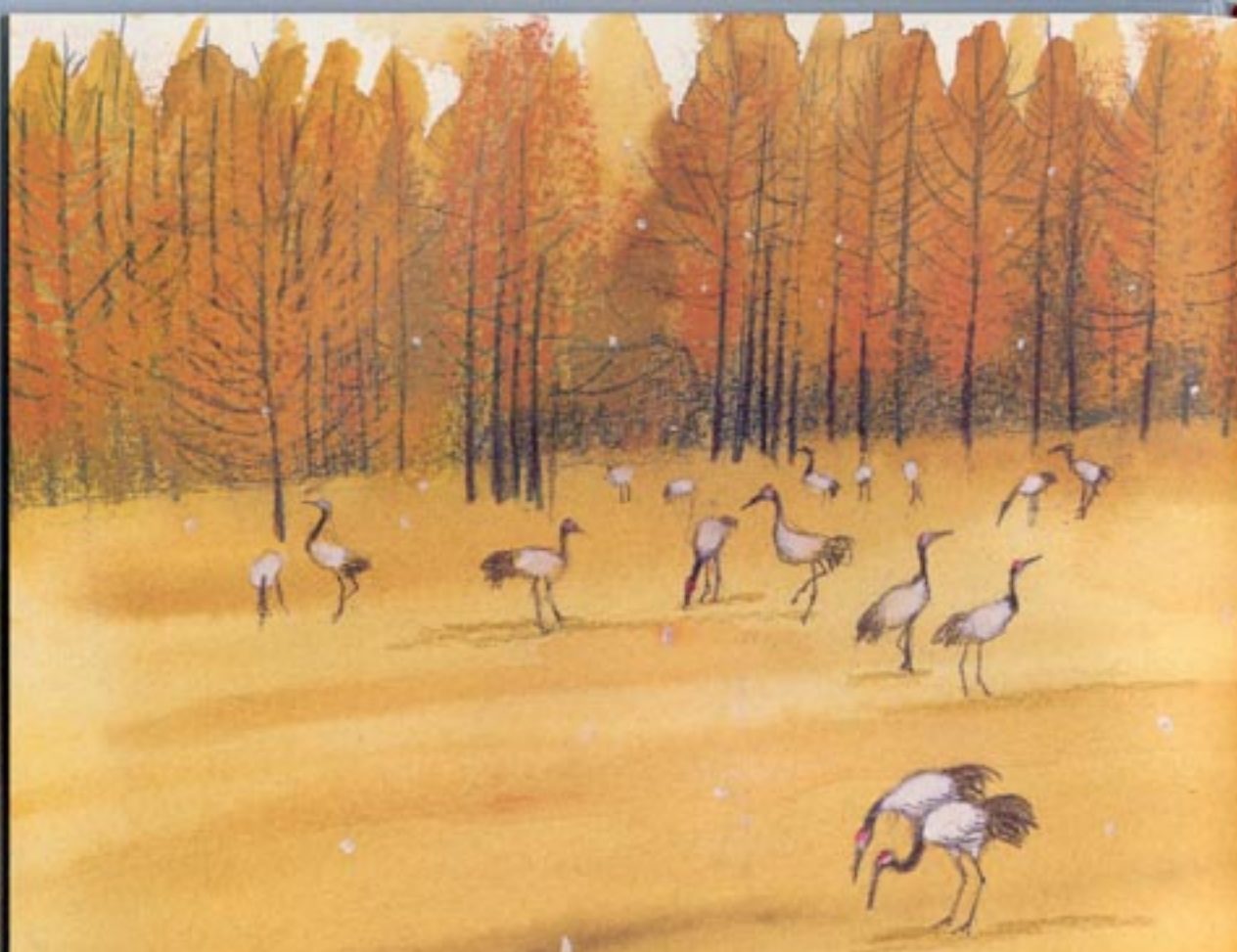
「自閉症は、なめることはありません。ほかの子どもたち
といっしょに なにかをすることは、むずかしいでしょう」
という ことばが、おかあさんの頭のなかを ぐるぐる。公
園でお友だちと いっしょにあそぶことは苦手だとか、思い
あたることは、たくさんあります。

おかあさんは、思いなおして駐車場にむかい、車にのり
こみましたが、すぐには うんてんができません。ハンドル
に顔をふせてしまいました。

ちおりちゃんが、悲しそうなようすの おかあさんのかた
を しんばいそうに とんとん たたきました。

「だいじょうぶよ」と言うのが、せいっぱいの おかあさ
んです。ふかく息をすいこんで、それから車のエンジンをか
け、ちおりちゃんがだいじょうぶな ツルのいる野原にむかいま
した。

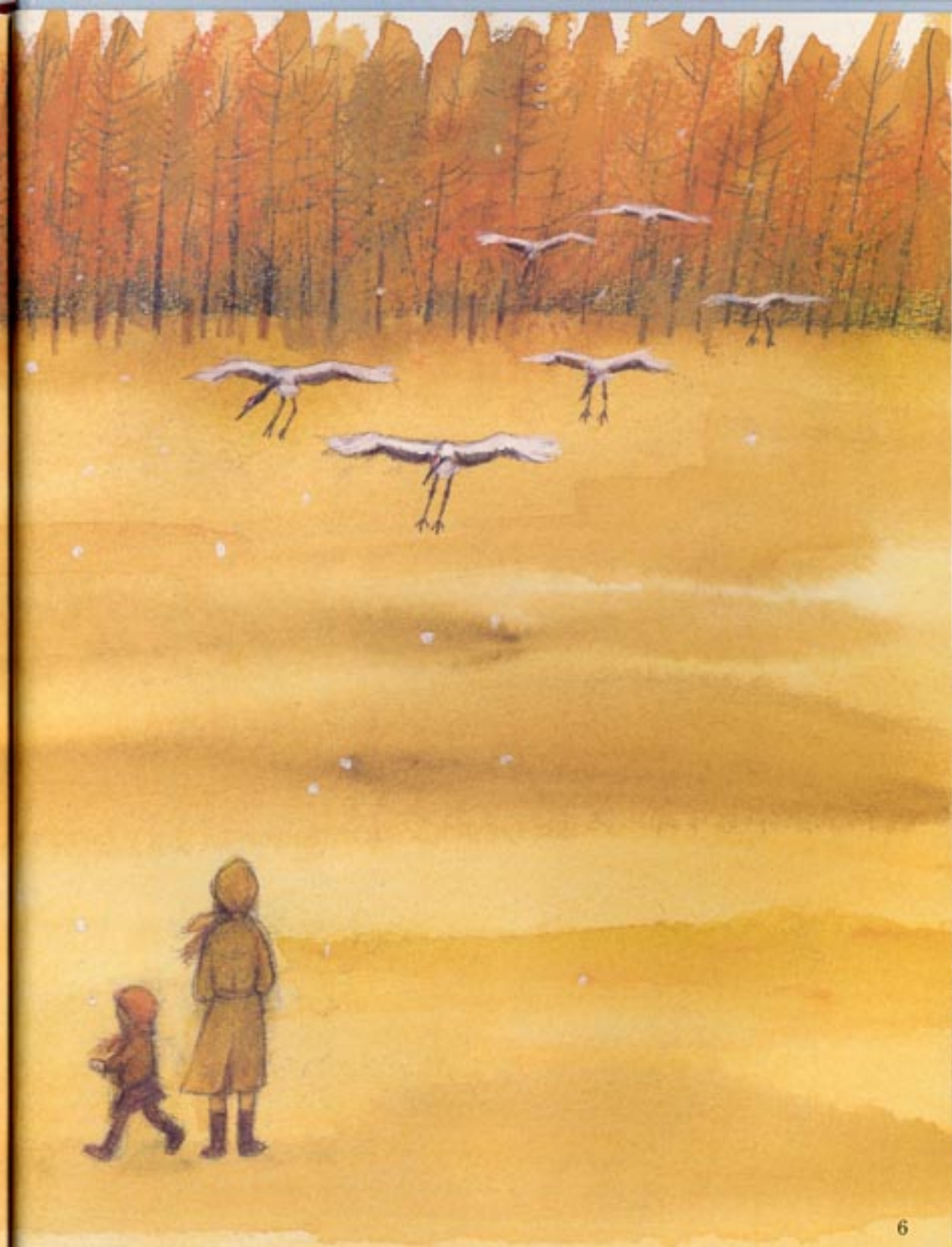




ツルが、シベリア大陸から たくさん
とんできたところです。羽を やすめて
いるツル。つばさを広げて はばかせ
ているツル。

ちおりちゃんは、おかあさんツルのそ
ばで、えさをさがしている子どもツル
を ながめて うっとり。かほそい足と
つばさで、つめたい風のにり、北の国か
ら荒海をわたり、はるばるやってきたツ
ルを ながめていると、おかあさんは、
自然界のきびしさと ゆたかさと 神さ
まの慈愛を かんじます。

この冬はじめての雪が、ちらちら ふ
ってきました。



ちおりちゃんがねむってから、おかあさんは、びょういんで 医者さんに言われたことを、おとうさんに伝えました。
「やっぱり。そうじゃないかと思ってたよ」と、おとうさんは顔をくもらせています。おとうさんは、ときどきインターネットで、ちおりちゃんの症状を、しらべていました。
ひそかに、これから先、ちおりちゃんが、どう生きていったらいいのだろうと、しんばいしています。くすりや手術で、なれる障害ではありません。ちおりちゃんがでける、とくいなことをさがし、生きていく力をつけてあげたい、と考えています。
おかあさんは、ちおりちゃんが小学校に入り、みんなとあそんだり勉強したりできる日を、待っていました。障害をもった子どもは、元気な子どもが、障害のある子どもを理解して、なかよくできる、いいところです。



ちおりちゃんが、学校に一人てかようのは
むずかしいので、おかあさんといっしょに
行くことになりました。

学校生活をはじめて九か月。きびしい冬の
季節が、はじまりました。つよい横なぐりの
風と雪が、ビュービュー音をたてて、吹きま
くっています。町は真っ白。いっすん先も見
えない吹雪のなか、ちおりちゃんとおかあさ
んは、一歩一歩と、学校にむかいました。そ
の日、もうすぐ学校というところに、進入
禁止の大きな板がありました。通行どめで
す。ちおりちゃんは泣きだし、すわりこんで
しまいました。いつもとようすがちがうと、
頭のなかで、こんらんしてしまうのです。
ちおりちゃんの声と吹雪のうなりがうずま
き、ひびいています。



やっと、たどりついた学校。きょうは、月曜日です。

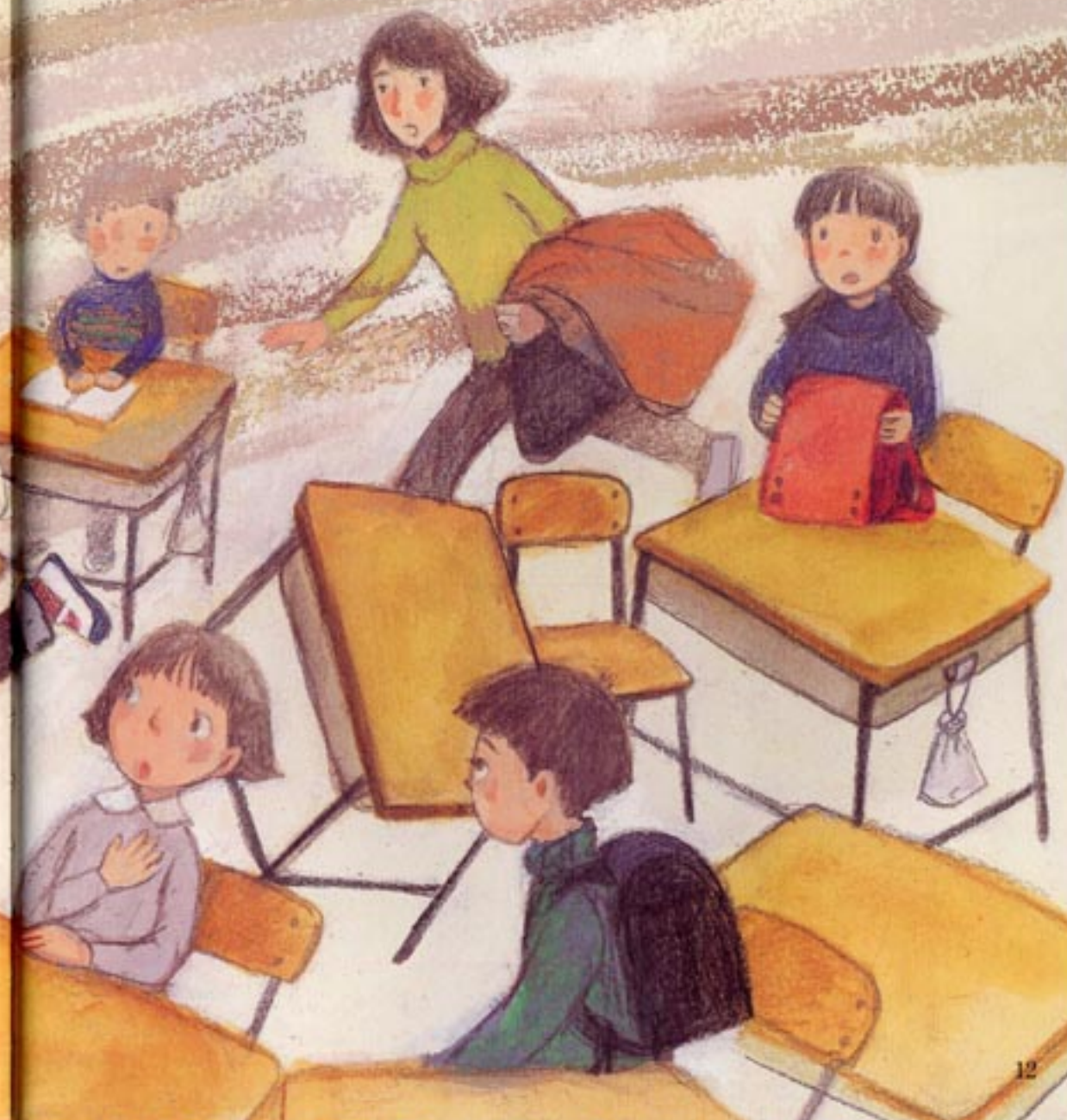
教室のかべに、クラスのみんなの新しい絵が、はりだされていきました。

それを見て、ちおりちゃんが、またまたおさわざ。とつぜん、大声をあげながら、机の間を走りだしました。おかあさんが、追いかけます。ちおりちゃんは、月曜日が、だいきらいです。教室のようすが、かわると、こわくなってしまふのです。

マユちゃんが一人、そばにきて、「どうしたらいいの」と聞いてくれます。

「ちおりちゃんの絵も、ほら、あそこにあるよ」とゆびさして教えても、いまは、へんじができません。

おかあさんが、やさしく抱きとめて、やっと落ちつきました。





小学校の六年間は、あつというまに すぎていきました。
きょうは卒業式。

ちおりちゃんが、みんなと いっしょに 卒業できるのは、すばらしいことです。ちおりちゃんなりに むずかしい勉強も がんばったし、えんそくや、うんどうかい、てんらんかいも、お友だちに助けられたり、先生に手伝ってもらいながら、さんかできたのですから。

おとうさんと おかあさんは、ちおりちゃんが お友だちや 先生のおかげで 卒業できたことに、感謝でいっぱいです。